

なとりこどもファンドって知っちゃう？

宮城県名取市で行われるこどもファンド事業「なとりこどもファンド」。
2017年から始まり今年度で4回目を迎えました！（3回目より市の事業となる）
令和2年8月1日に開催された「未来へチャレンジ！2020なとりこどもファンド公開審査会」
において採択された10団体の中から、2団体の活動を紹介します！



● 宮城県名取北高等学校 奉仕活動部

昨年、小さな子どもからお年寄りまで、多くの方々にかかるた遊びを通じてなとりの魅力を発信するとともに、防災意識の向上を図ることを活動の目標に掲げて作成された「なとり令和『夢』かるた」。高校生ボランティア・アワード2019（パシフィック横浜）でも紹介し、大変好評をいただきました。



今年は、「なとり令和『夢』かるた」を使った交流会を開催するため、コロナ禍でも遊べるものとして、特大（A3）サイズのかるたを作成中です。特大サイズにすることで、参加者同士のソーシャルディスタンスを図り、室内で軽運動を行う機会にもつながります。

この一石三鳥、四鳥にもなる活動で多くの方々にも名取の魅力を再認識していただき、盛り上げていけたら素晴らしいですね。



▲作業風景

● 夜空に花を咲かせ隊

新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事のほか、たくさんのイベントが中止となった2020年。そのような中、みんなに笑顔と元気と思い出を届けたい！という思いから小学生6人が「夜空に花を咲かせ隊」を結成。

去る9月19日（土）小学校の校庭を会場に、花火師の方からのミニ講座、隊員による花火クイズや、ジャンケンで勝ち残った小学生による花火の点火体験を行ったほか、2種類の吹上花火60本の鑑賞会を実施しました。



▲夜空に花を咲かせ隊のみなさん

約100名の参加者からは、「子ども達が企画して、協力する方がいて、みんなの心に素晴らしい思い出を作ったことに感動しました！」「また来年も参加したい！」など、たくさんの感想が寄せられました。



▲校舎と花火と参加者

第32号
(令和2年11月)

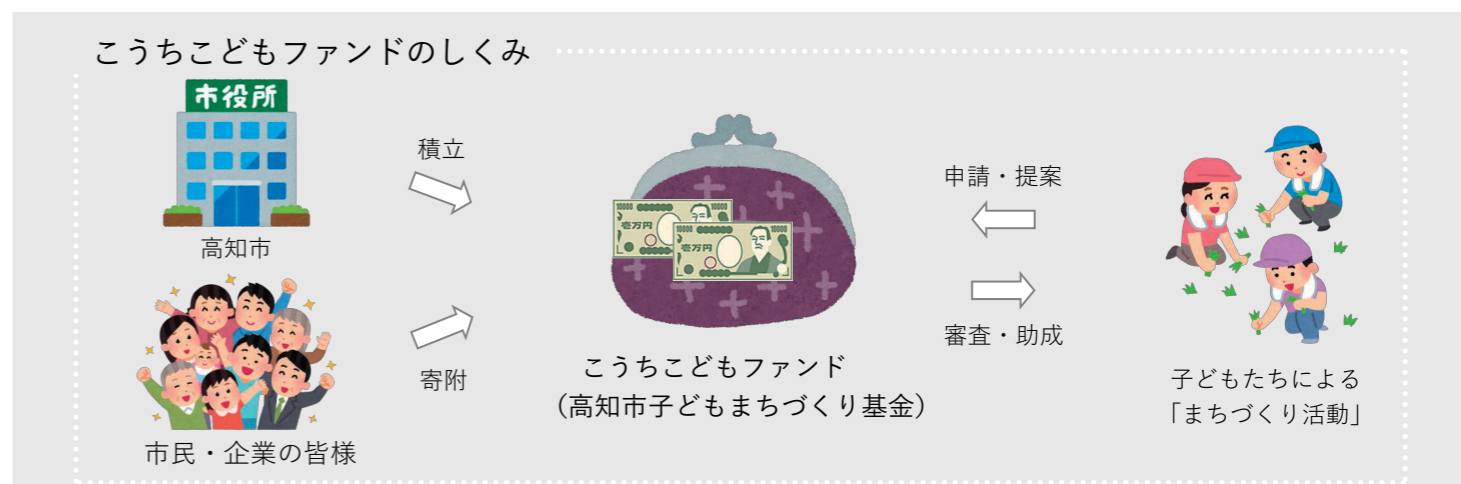
こうちこどもファンド 通信

編集・発行：高知市地域コミュニティ推進課 (TEL/088-823-9080)

NEWS 01

あなたも「こうちこどもファンド」で活動してみませんか？

こうちこどもファンドは、「子どもたちのアイデアで、住んでいる地域等をより魅力的で住みよいまちにするための活動」「子どもたちの活動によって、誰かが喜んでくれる活動」を応援するための制度です。



- 応募条件**
- ① 18歳以下のメンバーが3人以上いること
 - ② ①のメンバーがひとつの家族（兄弟姉妹）だけでないこと
 - ③ サポートしてくれる大人が2人以上いること
- 助成金額** 1事業あたり20万円まで
※助成対象は、事業に必要な材料費・文房具代・印刷費・講師謝金等の経費です。
- ポイント**
- 制度の特徴** 提案・審査・活動の全てにおいて「子どもが主体」となる、全国的にも珍しい制度です。

寄付 皆様の善意をお寄せください

子どもたちへの応援の気持ちを、ぜひ寄附としてお寄せください。寄附の手続きは簡単ですので、地域コミュニティ推進課までお気軽にご連絡ください。詳細はホームページでもご確認いただけます。なお、寄附金については税制上の優遇措置があります。

令和2年4月以降にご寄附をいただいた皆様

企業・団体様

- 三愛石油カスタマーサービス株式会社 代表取締役社長 高橋 典子 様
- 有限会社田部興業 代表取締役 田部 正生 様

平成31年4月以前にご寄附をいただいた皆様は、地域コミュニティ推進課のホームページに掲載しております。

ありがとう
ございました

美化

清掃活動

防災

防災学習

交流

イベント開催

食

地域の有用植物で
防災食づくり

こども審査員にインタビュー！！

こどもファンドに応募されてきた活動の審査を行う「こども審査員」。初期の審査員の中には社会人となっている人も！

今回、そんな「こども審査員」経験者の皆さんの「今」にせまりつつ、インタビューを実施。活動の中で感じたことなど率直な感想を聞いてみました。



いのうえ まりん
井上 青海さん(18)

- ・H24～25年度こども審査員
- ・高知学園大学1年生



第1期こども審査員
第四小学校5年生(写真当時)

現在、学校の「副生徒会長」を務める青木さん。その背景にはこどもファンドでの経験が大きく関わっていると語ってくれました。青木さんのモットー「HAPPY SPIRAL」とは。



第3期こども審査員
はりまや橋小学校3年生(写真当時)

あおき はるか
青木 晴楓さん(14)

- ・H26～28年度こども審査員
- ・H29年度活動団体「にじいろ発見隊」こども代表者
- ・土佐塾中学校3年生

1 自分にできることは何やろう？

もともと、とさっ子タウン(★1)っていうイベントに参加してて、その中でこども審査員のオファーが来たので参加してみました。

こども審査員を経験して1番印象に残っているのが、同年代の子たちが早くから「地域活性」に関わっていきこうとしている姿。なら自分にできることって何やろうって思ったときに、そういう頑張っている人たちを後押ししたいと思いました。

活動する側の視点じゃなくてそれを裏でサポートするという立場を経験して、サポートするって相手だけじゃなくて自分のプラスにもなるな、楽しいなって思いました。

★1とさっ子タウンとは子どもたちが社会の仕組みやお仕事を疑似体験できる架空のまち

2 将来の夢につながる

もともと高知が好きっていうのもあるけど、とさっ子タウンとかこどもファンドに参加していくうちに、もっと「地域活性」に興味がわいてきました。

今は、管理栄養士になって高知の食文化を継承したり、そういう形で高知に貢献しようと思ひ、勉強を頑張っています。将来の自分の進路や夢にもつながってくると思うのでこんな貴重な機会を逃さずに積極的にチャレンジしてほしいです。



現在、外科医を目指し高知で医学を学ぶ池上さん。進路を考えた時、人と関わる仕事をしたいと思ったきっかけに、こども審査員での経験があると語ってくれました。

1 人と関わるのっていいな

こども審査員としての活動を振り返って、小学生から高校生までみんなが意見を言えることが強く印象に残っています。なかでもすごいと感じたのが、細川審査員(当時高校3年生)。彼が率先して意見を言って、周りを引っ張っていく姿に刺激を受け、自分も積極的に発言するようになりました。

また、中学生の段階で、早稲田大学の卯月先生や市役所の方、学校も学年も違う子と関わることができ、世界観が広がりました。中学生のときは学校外の人と関わる機会も少なかったもので、人と関わるっていいなとその時感じました。

2 やってみて！

高校生までは、学校以外の公の場で色々活動できる機会は少ないと思います。その中で経験したことは自分にとってプラスになるし、他の団体の話を聞くだけでも新たなことを知るチャンスです。それが先々、進学や仕事を選ぶときに良い方向にきっとはたらくはずです。やるかやらないか迷ったら、ぜひやってみてください！

HAPPY SPIRAL



今まで自分に何かができるって自信がなかったんですね。けど、こどもファンドを経験してから、住んでいるまちのために自分に何ができるかな？と考える機会が増えたり、今、地域を変えれたがやったら学校だって変えられるし、友達のために何ができるかな？と前向きにとらえるようになりました。

また、こども審査員として、他の人が地域や周りを変えていくお手本を見ることができたと、実際に活動もしたことで地域の人が求めていることを聞くことができました。その経験から、なら生徒はどんな学校にしたいと思っているのかな？と思い、生徒会活動を通して行動に移したことで、より身近にみんなが喜んでくれたと感ずることができました。自分の行動が学校を変えていることを実感し、多くの人に幸せを広げる「HAPPY SPIRAL」の気持ちがもっと強くなりました。

2 一步を踏み出して

こども審査員のとき、私くらいの子どもでも地域を変えられるって知ったし、実際に活動することで、地域の人が自分の行動で喜んでくれるということを知ることができました。悩んでいるなら一步を踏み出して、それだけで地域も世界も変わるということを知ってほしいです。

また、今までいろんな人のおかげで活動に参加することができたので、今度は、何か活動したい！って思っている人に、こんな活動があるよってつなぐことができればいいなって思います。



いけのうえ はやと
池上 勇人さん(23)

- ・H24～25年度こども審査員
- ・高知大学医学部5年生



第1期こども審査員
春野中学校3年生(写真当時)